

山形 いぶき



YNA 夢・ナース・愛



保健師職能委員



助産師職能委員

2016年広がる職能の輪



看護師職能Ⅰ委員



看護師職能Ⅱ委員

TOPICS

- ❖ 会長あいさつ
- ❖ サードレベル教育課程
- ❖ 職能だより
- ❖ WLB推進ワークショップ
- ❖ 最北・置賜活動状況
- ❖ イクメンナース奮闘記

平成28年度「日本看護協会通常総会・職能別交流集会」

- 期日：平成28年6月7日(火)～9日(木)
- 場所：千葉県 幕張メッセ

平成28年度「山形県看護協会通常総会並びに職能研修会」

- 期日：平成28年6月17日(金)
- 場所：山形県看護協会会館・看護研修センター 3階第1研修室他

山形県看護協会ホームページ

<http://www.nurse-yamagata.or.jp>

県ホームページ「すまいる山形暮らし情報」からもリンクできます。

機種によってはアクセスできない場合があります



山形県看護協会



平成28年度会員数
(11月26日 現在)

保健師	381
助産師	352
看護師	6,494
准看護師	222
計	7,449

平成28年を迎えて ～「支え合い」「認め合い」看護のつながりを大切にしよう～

会長 井上 栄子



新年あけましておめでとうございます。年頭にあたりまして一言ごあいさつ申し上げます。

日頃から山形県看護協会の事業に関しましてご支援とご協力いただきまして、無事に新しい年を迎えることができましたこと心から感謝いたします。

さて、平成27年度から一般社団法人日本助産評価機構によるCLoCMiP：助産師実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証制度がはじまり、全国では5,564人、山形県では91人（アドバンス助産師）が合格しました。県内の就業助産師の28.9%であり、全国でも上位でありこれも助産師職能委員や県助産師会の努力の賜物とところから感謝いたします。

平成28年も助産師実践能力強化のための認証制度のさらなる普及に努め、助産師ケアの充実に向け研修会を企画しておりますので、ご活用していただければと思います。

また、今年は各地域で地域医療構想として「2025年における医療提供体制のビジョン」を示す年であります。今後の少子高齢多死社会の進展を踏まえ、医療と介護の制度改革が進んでいく中で、病床機能の見直しが図られ在宅医療の充実はますます重要となります。

これからの看護は、「医療モデル」の視点をもちつつも、人々の「生活の質」の向上を支援する「生活モデル重視」の視点をもって、「住み慣れた場所で最後まで暮らせるように、患者に寄り添いその人らしく生きること」を支える看護が重要であります。

そして、変化する時代においては社会の看護職に対する期待は大きく、専門性に裏付けられた確かな実践力が求められ、地域のなかで看護のつながりを大切にすることが重要となります。

今年度は、活躍する看護職の支援を行うとともに、「支え合い」「認め合い」看護のつながりを大切に、看護職が働き続けられるように支援していきたいと思っていますので、今年もよろしくお願いいたします。新しい年がよりよい年になりますように心より祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

理事会の開催報告

・平成27年11月19日（木） 第8回理事会

主な
審議事項

1. 平成27年度上半期の事業報告・決算並びに監査報告＜承認＞
2. 平成28年度日本看護協会名誉会員・会長表彰者の推薦＜承認＞
3. 定款の一部改正(案)＜承認＞＊役員の任期 第26条 3項の削除

・平成27年12月17日（木） 第9回理事会

主な
審議事項

1. 平成28年度重点事業(案)事業スケジュール(案)＜承認＞
2. 平成28年度教育計画(案)＜承認＞
3. 特別委員会「看護職のWLB推進委員会」からの答申について＜承認＞
4. 「山形県看護協会災害支援要綱」・「災害支援ナース派遣規定」の一部改正(案)＜承認＞
5. 「山形県看護協会寄附金等取扱規則」(案)＜承認＞
6. 「山形県看護協会特定個人情報基本方針」(案)・「特定個人情報・雇用管理情報管理規定」(案)＜承認＞

平成27年10月末～平成28年1月の山形県看護協会事業実施状況について

- ・平成27年10月30・31日（金・土） 第2回訪問看護ステーション管理者研修
- ・平成27年11月5日（木） 認定看護管理者教育課程サードレベル閉講式（22名）
- ・平成27年11月10～12日（火～木） 日本看護協会災害支援ナース派遣調整合同訓練
- ・平成27年11月14・15日（土・日） 2015やまがた健康フェアでの「まちの保健室」（約500名）
- ・平成27年11月16日（月） 上半期会計監査
- ・平成27年11月18日（水） 訪問看護師養成講習会修了式（28名修了）
- ・平成27年11月28日（土） 医療安全やまがたフォーラム
- ・平成27年12月19日（土） 平成28年度教育計画に関する懇談会
- ・平成28年1月23日（土） 平成27年度第2回合同委員会及び支部長会議

DiNQLの平成28年度募集が始まりました

申込受付期間：平成28年1月7日～2月29日

労働環境の改善と看護の質向上を目指して開発されたデータベース事業です。

事業に参加して看護管理者のデータマネジメント力を強化しましょう。

詳細は日本看護協会公式ホームページをご覧ください。

平成27年度山形県看護研究学会を終えて

学会委員長 関亦 明子

平成27年11月12日(木)に、日本精神科看護協会山形県支部との共催による山形県看護研究学会を、山形県看護協会会館にて開催いたしました。参加者は学生を含む308名で、19組のグループによるレベルの高い研究発表が行われました。

学会のメインテーマは「患者・家族によりそう看護実践研究」でしたが、昨今の看護事情を反映して、患者のみでなくその家族をどうやって支えるのか、また、退院後の取り組みや訪問看護等の話題も提供され、臨床現場が垣間見える実践的な研究が多くありました。

また、特別講演では、東京大学大学院教授の真田弘美先生に「看護研究と看護領域の開発展開」というテーマでお話をいただきました。先生のこれまでの実際に実践に生かされてきた研究の歴史についてのお話は、とてもエ

キサイティングで研究に取り組む皆さんには大きな励ましになったようでした。

臨床で日々の業務に追われながらも、研究に取り組むみなさんのよい情報交換の場になったようで、主催者一同大変喜ばしく思っております。



関心が高いテーマにうなずいて！



関亦学会委員長



示説発表

「サードレベル教育課程」を受講して

米沢市立病院 竹田恵美子

～たくさんの学びと受講者の絆が宝です!!～

8月25日から前期・後期にわたり33日間の「認定看護管理者教育課程サードレベル」に県内外から22名が受講しました。

全国レベルの講師の方々から、最新の話題をはじめ、今まで触れたことのないトップマネージャーの視点での考え方・意思決定・行動等を学び、その立ち位置の覚悟が理解できたように思います。中でも印象に残るのは「人財こそが病院のロイヤリティを高める」「現場のモチベーションこそ病院を支える人を育む」「任せれば人は楽しみ動き出す」という言葉です。

自己の課題に向かうには、どのような資源を活用しアクションを起こしたらよいのか、学びを看護管理実践にどう落としこむのかと、立ち止まり深く考える機会になりました。受講者一人ひとりが置かれた現状から一歩進もうとする姿は刺激的で、施設は違っても看護管理への思いは同じように熱いことを感じ、グループダイナミックスの醍醐味を実感した瞬間でした。

また、同じ環境での仲間の絆は、精神的にとっても支えられました。受講者同志のネットワークが築けたことは宝であり、大事にしていきたいと思えます。

研修を終えた今からが始まりであり、一つずつ挑戦していきます。

そして、川村専任教員はじめ看護協会の皆さま、支援者・職場の方々的確なアドバイスと温かい心使いに感謝いたします。貴重な機会をありがとうございました。



日本看護協会会長 坂本すが先生とともに

「第2回保健師職能研修会報告」

1 テーマ 「地域を見る目を養う～保健師活動スキルアップ」

3 場 所 山形県看護協会 訪問看護会館

2 日 時 平成27年11月28日(土)10:00～16:00

4 参加者 56名

お忙しい中、悪天候の中、保健師職能委員会企画の本研修会に大勢の皆様よりご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

北海道大学大学院保健科学研究院 教授 佐伯和子先生・山形大学医学部看護学科 准教授 森鍵祐子先生のお二人の先生方よりご指導、ご助言を頂戴いただいた貴重な研修会となりました。

参加者のアンケート結果からも、大変実践的で有意義な研修であるとの回答が寄せられました。

5 研修のポイント

① 北海道大学大学院保健科学研究院教授佐伯和子先生の講義「地域を見る目を養うために」～地域診断の理論と実際～

①自分のまちの現状と未来図 自分達の町をみて主張できるよう準備する。②公衆衛生看護の対象と地域を理解する。③地域アセスメントの目的は何か。④地域アセスメントのプロセスと方法についてパワーポイントの分かりやすい資料によって説明いただき、時にフロアーへ投げかけ、意見を交換するなど懇切丁寧な講演をいただきました。

★まとめ

①アウトリーチで保健師としての感性を磨く②意図を持ってデータ収集・分析・読み込み③データを関係者や住民と共有し、活用する④目の前にあるデータから始める⑤苦手から「面白い」に変えるのも専門職の責任であるとのメッセージを頂戴いたしました。

② 県内の各地域での実践事例報告(3題)

- ① 上山市の高橋ちぐみ副主幹には上山市をフィールドとした気候性地形療法の取組みで日本再興戦略のアクションプランの一つの全国で23機関取組んでいる宿泊型新保健指導試行事業やライフステージに応じたウォーキングによる市民の健康づくりが浸透している活動をご紹介いただきました。
- ② 山形市包括支援センターかがやきの工藤依子保健師には地域包括ケアシステム構築のための生活支援事業の取組みとして介護予防事業として住民主体の通いの場＝サロン＋介護予防＋そして地域づくり「ご近所ささえあい」について町単位・地区単位のつながり支援とその強化・継続の秘訣などご紹介いただきました。
- ③ 山形県庄内保健所 阿部華織保健師には保健所が取り組む地域課題として自殺予防対策として飲酒と自殺の関連について検討し、飲酒の実態調査から未成年飲酒を経験している人の傾向を分析し、若年層への健康教育と、「心のサポーター養成研修」では庄内保健所職員で手作りの「やさしいゲートキーパーのはなし(動物を主人公とした物語)」のDVDを紹介いただきました。



③ ワールドカフェを取り入れたグループワーク

・実践事例報告を受けて感じたこと・疑問に思ったこと・今後強化すべきスキルは？

・明日からどんな活動をしたいと思いますか？について、9か所のテーブルを回りながら県内の保健師が意見交換を行いました。

今回の研修は受講者の皆様の満足感、充足感で明日からの実践意欲が会場一杯に感じられる時間となりました。来年度も保健師職能の課題を解決できる研修企画を検討してまいります。



先輩助産師の実践から学ぶ -feeling birth-を開催しました

10月31日(土)
42名参加

「先輩助産師の実践から学ぶ -feeling birth-」と題し、東京都国分寺市から矢島助産院の平出美栄子先生、矢島藍先生をお招きして研修会を開催しました。

午前中は矢島助産院の紹介や地域との医療連携、実際に来る妊婦さんへのかかわり方、分娩介助についてお話しいただきました。また、昼食も講師と参加者が一緒になり、参加者一人一人の自己紹介や日々考えていることを思いのままに話し、和やかな雰囲気の中での食事となりました。午後の演習では、リアル



パンツを使用し、実際に行っている矢島助産院でのフリースタイル分娩介助を、グループに分かれて実践しました。質問を交えながら、パワフルではつらつとした先生のわかりやすい実技のご指導を受け参加者みんなが満足してくれた一日となりました。

日々の忙しい業務の中ではありますが、助産師として基本に戻り、産婦さんをあたたかく迎え入れられるような分娩介助を目指していきたいと皆で共有することが出来ました。



平成28年度
CLOCMiPレベルⅢ
認証制度の申請の
準備を始めよう!!

今年度から始まったCLOCMiPレベルⅢ認証制度の申請が、全国で最終的に5,815人となり、想定数を大幅に上回りました。県内でも施設内や地域で助産師同士が声を掛け合って、約91名の方が合格しました。合格者はアドバンス助産師として登録されますので、本人のモチベーションアップや施設は地域に発信ができる等が期待されます。平成28年度の申請を考えている皆さん、研修受講計画はできていますか。施設でのオンデマンド研修や助産師職能委員会企画の研修をご活用ください。

看護師職能Ⅰ研修会

「病院看護師ができる在宅療養支援について考える」

平成27年9月26日(土)、超高齢社会に向け病院看護師ができる在宅療養支援について考えることを目的に研修会を開催しました。日本看護協会常任理事の川本理恵子氏より、「医療提供体制の変化を踏まえた病院看護師の役割」のご講演をいただき、その後、先駆的在宅支援活動として県内3施設より取り組みが紹介され、グループワークをしました。20代～50代の幅広い会員層140名が参加する企画となりました。自主参加された方も多く、現場において退院支援や在宅療養についていかに悩み、問題視しているかの現れと思われました。取り組みの紹介の中では実際の写真が映し出され、取り組みのイメージを膨らませることができたようです。しかしまだ、自施設としての実践に繋げることは難しいという声もありました。その中で、「病院看護師としてしっかり患者様の退院後のイメージを持ち、地域への情報提供や橋渡し



の重要性を再認識し、同僚に伝えていくことから始めたい。」という声や、「院外に出ていくのは難しいが院外のコメディカルとの連携だったらできるかも…」などの声もあり、ひとりひとりができることもあると思えるきっかけになったようです。

日本看護協会の「看護の将来ビジョン～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護～」という指針を一人ひとりが考え、専門性を発揮していく為、皆さまの支援になるような研修会内容を今後も提供していきたいと思います。

看護師職能Ⅱ委員会

『看護師職能Ⅱ委員会』は、「**介護・福祉・在宅領域の看護師の活動を支える**」委員会です。

看護職能Ⅱ委員会の活動例 ～これまでの研修会～

「高齢者のEnd of Life Care」

講師：老人看護専門看護師
桑田美代子氏

「介護施設の特徴と看護の役割～
介護リーダーとしての求められるもの」

講師：特別養護老人ホーム
施設長 九里美和子氏

「看取り」を支える

講師：仙台往診クリニック
院長 川島 孝一郎氏

「介護施設等における
看取りの実践を学ぶ」

講師：緩和ケア認定看護師
釧持 朝子氏

「高齢者ケア施設の看護管理者交流会」

日看協主催で、看護管理者
(チームリーダー)のネットワーク構築を
目的として開催。

一緒に学びあい、つながろう!!

介護領域に特化した研修を企画しております。
現場から意見を発信していただき、介護領域で
働く私たち看護師が、安心して働き続けられる
環境づくりと専門性に基づいた看護の質の向上
を一緒に考えていきませんか。

WLBは地域医療を担う 順仁堂遊佐病院の生命線です

順仁堂遊佐病院 院長 佐藤 卓

当院におけるWLBの取り組みの成果は、この三年間ではっきりと目に見える形で現れています。職場の雰囲気は明るくなり、院内それぞれの部署の職員に活気とやる気がでてきたことで患者様の表情も明るくなったと実感しています。

地域医療の責任のある実践のために、意欲のある有能な看護職員の確保と定着は何よりも大切です。そのことは余計なストレスのない自由な雰囲気の中での、働きやすい職場環境の整備があってこそそのものと私は考えています。

私は当院赴任前に、北海道の公立病院で約二十年間院長職を務めておりました。その中で得た一つの信念が私にはあります。それは、本庁の医療行政管理職と現場の職員組合スタッフの間に立ち、地域の医療をより良いものにするために汗を流す中で得た確信でした。「患者様を笑顔にするためには、病院職員をまず笑顔にする必要がある」ということでした。それはつまり、「職員の笑顔のない病院の中の患者様の笑顔は生まれない」ということです。

当院において福利厚生の上を目指した中でのWLBを取り入れたその効果は、患者様のリラックスしたその表情に現われています。これからも当院は看護職員を中心に一丸となってWLB運動を着実に推進してまいります。地域の医療、介護、福祉を担う当院にとりましてのWLBの遂行は、今や病院にとっての重要な生命線となっているからです。



「看護職のWLB推進ワークショップに取り組んで」 ～3年間のあゆみ～

篠田総合病院 院長 篠田 昭男

当院では平成25年度に看護協会のWLB推進事業に参加し3年目を迎えました。看護部を中心に「働き続けられる環境づくり」を目指し、インデックス調査のデータをもとに現場の生の声を参考にしながら環境改善に取り組んできました。

1年目は業務のスリム化に向け、PHSの増台や看護師が行っていた事務処理を医事課や薬剤部門から協力を得られるなど小さい項目から手掛け、2年目は処遇変更といった制度改革を実施しました。調査項目の健康不調に着目し、病院の中での健康づくりを目指しリハビリ部門のセラピストから、集団指導と個別指導を受けられるメディカルフィットネスを開設しました。1年経過した今、企業と契約し、院内・院外でもフィットネスを受けられる体制が整いました。

制度改革は、看護師の正職員拡大やケアワーカーの処遇改善、夜勤回数増には手当等様々な改善を図ることができました。これらの改革は、ワークショップ推進事業に参加した成果であると実感しております。

看護師だけでなく、院内で働くすべての職種が働き続けられる職場づくりを今後も継続的に取り組んでいきたい次第であります。



“為せば成る”の精神でワーク・ライフ・バランス 推進に挑戦する看護部に栄光あれ

米沢市立病院院長兼事業管理者 渡邊 孝男

ワーク・ライフ・バランス(WLB)は職業人にとって常に大きな課題であり続けてきました。現在、官民トップにより決定された“仕事と生活の調和”憲章および行動指針に基づいて様々な取り組みが進められています。医療現場もその例外ではありませんが、当直・夜交代勤務など他職種と比べて厳しい勤務環境で重責を担いながら働き、家庭での役割も果たす生活を持続することは現実には大変苦労が多いわけです。しかし、当院看護部は“お互い様精神”で創意工夫をもってWLB推進に挑戦し、着実に成果を収めています。特に“選べる交代制勤務”を試行して丁寧に意見を聴取し、希望に応じてこの制度を拡大していることに感銘を受けています。その他にも新しいことに果敢に挑戦し、当院の牽引役となっており、感謝しています。看護部の皆さんが職場でも生活の場でも輝いている存在であることは、地域住民に安全で温かな医療と看護を提供するための大切な基盤であると確信しています。“為せば成る”の精神でWLB推進に挑戦する看護部に栄光あれ！とエールを贈ります。



私たちの病院が
「看護職のWLB推進
ワークショップ」に
3年間取り組みました！

2/5(金)の
フォローアップ
ワークショップの
当日参加も
受け付けます。

「病院職員のワークライフバランス」

公立高島病院 院長 須田 高

当院の管理職は「ワークライフバランス」という考え方が浸透する以前に社会人生活をスタートし、時間制約をあまり意識しないワークスタイルで実績をあげてきた世代が中心です。

国保直診病院として、改革プランの中に民間的経営手法を導入する方向ですが、「ワークライフバランス」については、全病院的にこの考え方を、特に管理職に根付かせることが第一歩と考えています。

ワークライフバランスが定着している現場では、業務の仕分けや簡素化、マニュアル化が進み、時間当たりの労働効率が良くなり、限られた時間でどうすればいいかという発想が、働く人たちの中から出てくるなど、働き方の改革ができる可能性があるからです。病院の職員の最大の人数を占める看護部で「ワークライフバランス」の試行について、私のところに相談があった際、①衛生委員会の下部組織とすること②産業医をアドバイザーに入れること③試行内容を定例の衛生委員会で報告事項に入れることをお願いしました。衛生委員会で試行の内容を報告することにより、管理職は勿論、各職種・病院全職員に周知される取り組みとなりました。

「ワークライフバランス」の考え方を理解し、正しい取り組みが行われれば、多職種の集まりである病院で、働き方の異なる職員が患者さんを中心に協働することができるとともに職員のメンタルヘルス対策・モチベーションのアップにつながります。さらに、人材確保の観点からも大きなメリットが期待でき、今後は病院職員全体のワークライフバランスを推進していきたいと考えています。



「輝く医療職をめざして」

鶴岡市立荘内病院 院長 三科 武

超高齢社会に入った日本にとって医療と介護、経済活性化、地方の活躍など解決が必要とされる問題は多くあります。鶴岡市にとってもこれらは大きな課題となってきています。

高齢化、過疎化により地方における労働人口の減少も危惧され、いかに働きやすい職場と家庭環境を良い状態に維持するかが検討課題であると思います。

病院にとって看護師は大きなパワーの源であり、いわば車のエンジンに当たり、この力を存分に発揮し効率よく患者さんに向けることが大切となります。そのためには生き生きと笑顔で働ける職場と精神的なゆとりが生まれる個人環境が必要だと思います。職業人としてだけでなく、自分のライフステージにあった社会の中の一人として活動をするためにも、この3年間のWLB推進が大きな力となったと考えます。輝く医療職、看護職となり将来にわたり継続した活動となり、病院と患者さんの力となってくれることを願っております。



「働き続けたい職場づくり」

公立置賜総合病院 院長 渋谷 久

私は就任3年目になりますが、職場で最も重要な目標として「医療安全」と「働きやすい職場づくり」をお願いしています。しかし最近、後者を「働いてみたい・働きやすい・働き続けたい職場づくり」と少ししつこいキャッチフレーズに変えて皆さんに協力をお願いしているところです。希望にあふれて入職しても、中途退職せざるを得なくなる道は最も避けるべきでしょう。特に「働き続けたい職場づくり」のための第一歩が、WLBをみんなで考える事ではないかと思っています。当院では多様な勤務形態試行やリフレッシュ休暇取得を積極的に取り組んでいるようです。子育て・介護をしながら仕事を続けることは本当に大変です。つらいことは勿論、良かったと思った取り組みも病院内外を問わず分かち合って、働き続けてほしいと願っています。



最北支部活動状況

研修会と「まちの保健室」を開催！

最北支部長
教育委員奥山 明美
山口 慶子

最北支部では今年度から研修会の参加率をあげるため、1日に2つの研修会を組み合わせ実施しました。山形県でただ一人の老人看護専門看護師の方から、「高齢者の心身の理解」とNPO法人国際ヨガ協会の仙山支部長の方からの「ヨガ」のリフレッシュ研修を実施し、50名の参加となりました。老人看護研修会では今後の仕事に生かせる、基本的なことが判別に役立つという意見がありました。ヨガ研修会ではリラックスできた、気分転換ができた等、参加者の意見も好評でした。

「まちの保健室」は10月4日県立新庄病院、10月12日蕨葉プラザを会場に実施しました。病院まつりや健康まつりと併せて実施したため、多くの参加がありました。参加者から血管年齢測定や骨密度測定など普段測定できないものを初めて実施でき、関心を持つ方が多数いました。



有意義な研修会

また、県の地域医療構想策定に向けた地域医療構想検討部会へ支部長が参加しています。在宅医療の充実に向け、患者の立場・看護師の立場を理解している看護の活躍がますます期待されると感じます。

最北支部では、これからもより多くの会員の皆様が参加できるような研修会や地域の方も参加できる活動ができるよう、企画を充実させていきたいと思っています。



まちの保健室も盛況に

置賜支部活動状況

「置賜支部研修会を振り返って」

置賜支部長
教育担当佐々 香代子
野田 みさ子

置賜支部では7月12日(土)に第1回研修会を開催しました。第一部は井上栄子会長より、今後医療提供体制が変化していく中で、看護そして看護職はどうあるべきか、また今年度の重点事業についてご講演いただきました。看護の質を高め、安心して働き続けていくための取り組みが計画的に行われていることを理解することができました。第二部では公立置賜総合病院歯科衛生専門員の長谷川順子氏より、「誤嚥性肺炎を防ぐ高齢者の口腔ケア」と題し、事例や実演を交えての講演でした。「口腔ケアの実際を詳しく説明してもらえてよかった」など、現場に活かしていきたいという意見が多く聞かれました。第2回研修会では、11月7日(土)ディズニーとホテルのホスピタリティを語る作家・高校教諭である生井俊先生を講師に招き、「ディズニーが大切にしている心が通うおもてなし～相手への気遣いは、人を輝かすこと～」と題し、笑いあり、感動ありの講演でした。「自分の姿勢や考え方を見直すきっかけになった」「相手の立場を考えた行動をしたい」という声が聞かれ、とても楽しく、元気を頂いた研修会でした。今後も、看護師の皆様がリフレッシュし、看護の質向上につないでいけるよう、支部活動を充実させていきたいと思っています。

生井俊氏からディズニーの
ホスピタリティを学ぶ

井上会長の講義

また今年度は、「地域医療構想置賜地域検討部会」が7月と11月に開催され、地域の病床機能、在宅医療の推進や連携について意見交換がなされました。看護師の立場でしっかり意見が言えるように取り組んでいきたいと思っています。



口腔ケアの実技を取り入れて

訪問看護ステーション

訪問看護サミット2015に参加して

訪問看護ステーション新庄 渡部 良子

初めて訪問看護サミットに参加させていただきました。今後予想される社会、必要とされるサービス、現状と課題の講演を聞き、改めて地域包括ケアシステム、そして訪問看護の立場の重要性を再認識しました。

訪問看護は医療と介護のニーズを併せ持つ方々の地域生活を支えるパイプの役割を持っている、地域全体のニーズを視野に入れ、「訪問看護」から「地域看護」への展開が必要であるという言葉に感銘を受けました。

今後、自分達ステーションが地域や在宅という現場でどうパイプの役割が果たせるか、考えていかなければならないと感じました。

看護小規模多機能居宅介護施設「わいは」を視察して

訪問看護ステーションまいづる
須藤美和子

平成27年11月7日に新宿区にある看護小規模多機能型居宅介護「わいは」を視察して来ましたので報告します。

「看多機」は自宅で療養生活を大切に過ごすためにできた、地域で医療と介護の専門家が見守る新システムで、ここでは通い・泊り・訪問看護・訪問介護の4つのサービスを24時間365日受ける事ができます。3階建ての施設は、アロマの香りとステンドグラスが素敵で「我が家」という感じで、現在の利用者は12名、職員は看護師8名他12名で運営しています。

ターミナル期などの中重症者が多い中、入院を回避したり自立度が向上するなど、医療ニーズを満たしつつ、利用者の力を引き出すケアを紹介してもらいました。今後は訪問看護から地域看護への展開を見据え、地域のニーズをとらえていく必要があると実感しました。



施設玄関にて



2階ベッド

ナース

イクメン 奮闘記

「私のライフワーク」

三友堂病院 佐藤 仁寿

私には3歳と5歳の息子がいます。保育園通いで、何かと流行にのっかります。ただし、妖怪ウォッチなら良いのですが、細菌やウイルス感染の流行にのっかります(涙)。看護師で良かったことは、夜勤前の時間や平日の休みがあることで、子どもの受診や家の用事を済ませることができることです。妻は保育士として共働きの為、子供の送り迎え、食事や着替え、お風呂いれなど協力してやるようにしています。職場では、認定看護師として勉強会の開催や指導など、院内外で活躍の場を頂いており、やりがいを感じています。仕事から疲れて帰ると「バパー！」と元気に抱きついてくる息子達。寝顔を見ると疲れも吹っ飛び癒されます。今しかない子供との時間を大切に、いっぱい思い出をつくらう。そして職人として、親としても成長していきたいと思っています。

※写真は長男が描いた「家族の絵」です。



イクメンの皆様へ

県立河北病院 鈴木 崇文

私の子どもは高校2年生と中学1年生。皆様とはライフステージの異なるイクメンかもしれません。さて、「子どもは3歳までに一生分の親孝行をする」とよく言われますが全く同感です。泣いても笑っても駄々をこねても無条件に可愛いのです。私は訳あって下の子が小さいときに単身赴任を経験しましたので、尚更そう思うのです。

育児中のみなさま。子どもと過ごす時間を大切にしてください。一緒に過ごせることは幸せなのですから。



「子供と一緒に考える」

北村山公立病院 青木 達朗

私には、小学1年の娘と3歳の息子がいます。いつも家の中はにぎやかで、静かなのはご飯食べている時と寝ている時くらいです。日頃から子供と一緒に遊び、時には子供の目線で考え、時には大人の目線で考え何が正しくて、何が間違っているのか子供と一緒に考えて考えるように心がけています。最近では子供から多々、指摘を受けることもあります。素直に受けとめ、お互いに成長できるようこれからも悩みながら頑張っていきたいと思っています。



イクメンナースと呼ばれる日まで

県立こころの医療センター 海和 栄輝

職場の皆さんから協力してもらい分娩休暇・育児参加休暇を取らせていただきました。休暇をいただいたことでゆっくりと妻の出産に立ち会うことが出来ました。また、出産に立ち会うことで感動や家族が増える喜びを感じる事が出来ました。産後近くに頼れる人がいなかったため、長男の育児ができてとても有意義な時間となりました。無事2児の父になり、長男と次男の誕生日が同じでこの日は自分にとって特別な日となりました。妻と子の4人での生活はとても賑やかで、家族が増えた喜びを日々感じています。仕事で日中会えない分、家にいる時はなるべく子供とスキンシップを取るよう心掛けています。家事では妻にまかせっきりにならないようゴミ捨てや風呂掃除、炊事などできる事をなるべく手伝うよう心掛けています。イクメンナースを目指して、育児と仕事の両立ができるようこれからも頑張っていきたいと思っています。



3姉妹のパパ奮闘記

至誠堂総合病院 鈴木 拓哉

私は、地域包括ケア病棟で働いている3姉妹のパパです。職場でも家庭でも女性のなかで日々過ごしています。職場のご厚意もあり、3人とも出産に立ち会えたことはいい思い出です。「イクメン」と言われると大変恐縮ですが、お風呂は私の役割。

小さいバスタブにギュウギュウになりながら、3姉妹と仲良く？楽しく入っています。

これからも上手に仕事と家庭の両立をしていきたいですね。

来年こそは、キャンプにつれていきたいな一。



「看護師として、父として」

酒田市立八幡病院 柴田 貴庸

私は酒田市立八幡病院の病棟に勤めています。看護師として二年目で覚える事も多く忙しい毎日ですが、患者様の命を守るため日々頑張っています。

家では二児の父として勤務が終わった後や休みの日は家事や子育てに奮闘しています。下の子は今年生まれたばかりなのでまだまだ手はかかりますが、元気に成長してもらえよう妻と力を合わせて頑張っています。

公私共に忙しい毎日ですが健康に気をつけてこれからも頑張っていこうと思っています。



ナースセンターだより

平成27年度「訪問看護eラーニング」を活用した訪問看護師養成講習会

今年度は受講者が30名に急増!!

日本訪問看護財団の「訪問看護eラーニング」を活用した自宅学習と公開講座、訪問看護ステーションと緩和ケア病棟での実習等を組み合わせたプログラムで学びの多い講習会となりました。

アンケートの結果から、受講者は、訪問看護の基礎、専門的知識と技術の習得、自身のスキルアップや今後の課題の明確化など、それぞれが学びを深め、お互いに共有できたことで、高い満足度にもつながったのではないかと思います。

実践報告会では、他者の発表を聞くことにより、自分では気づかなかった事や新たな課題を見出したとの意見が多く聞かれました。

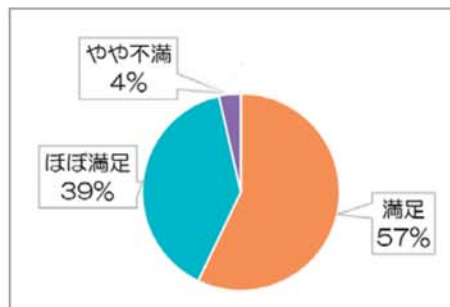
訪問看護に関心のある方、知識習得を目指す方など、たくさんの方の参加をお待ちしております。

開催期間 平成 27 年 6 月 24 日～平成 27 年 11 月 18 日

受講者数 30 名

アンケート回収数：28 回収率：93%

「eラーニング」を活用した学習についての満足度



平成 28 年度の応募お待ちしております!!
教育計画がお手元に届いたら、チェックしてみてくださいね!



受講者の声

- ・この講習会でいろいろな施設の方と話をすることがあり顔の見える関係ができた。このつながりを大切にしていきたい。
- ・講義だけでなく、他のステーションの事例なども聞くことができ、とても勉強になった。
- ・単調な学習となってしまうため、孤独を感じることもあったが、各自あいた時間で学習を進めることができ効率的であった。
- ・緩和ケア病棟の業務が、看取りから在宅療養支援へと拡大していることを学ぶことができた。
- ・他のステーションがどのように活動、機能されているのか知ることができた。リハ技師との連携が図られている点は、生活意識やリハビリに対する視点の意識が高まり、とても良いことだと思った。



参加者どうしのつながりを大切に・・・



いきいき働く医療機関サポートWeb (いきサポ)

活用ください!!

勤務環境マネジメントシステムとは？

- ・医師、看護職、薬剤師、事務職員等の幅広い医療スタッフの協力の下、一連の過程を定めて継続的に行う自主的な勤務環境改善活動を促進することにより、快適な職場環境を形成し、医療スタッフの健康増進と安全確保を図るとともに、医療の質を高め、患者の安全と健康の確保に資することを目的としています。
- ・各医療機関において、それぞれの実態に合った形で、自主的に行っていただくシステムです。

このサイトは、医療機関の勤務環境の改善に役立つ各種情報や医療機関の取組事例を紹介しています。ぜひ、皆さまの取組事例やご提案もお寄せいただき、医療機関の勤務環境の改善の取組を進めるためのデータベースとしてご活用ください。



こんな事例を見ることができます

- ・早期離職を回避するために
- ・奨学金貸与制度の充実
- ・短時間正社員制度
- ・他職種によるフラット組織へ転換するためのチーム医療
- ・育児休業者が出た場合の対応について（代替要員の確保方法等）

いきサポHP : <http://iryou-kinmukankyou.mhlw.go.jp/>

information

～今年も説明会を開催します！～

平成27年度 ～ナースカフェを通して、いろいろな働き方を学ぼう～ (再就業サポートガイダンス)

今回はナースカフェを開催し、看護職が資格を活かし、生活スタイルに合わせて働けるよう、参加者同士の情報交換会を予定しています。

- 日 時：平成 28 年 2 月 13 日 (土) 13:30～15:30
開催場所：山形県看護協会会館 2 階 第 2 研修室
内 容：①退職後、さまざまな働き方をしている方のお話
・イベント等の救護のお仕事をされている方
・復職研修受講後、福祉施設に週 2～3 日で働いている方
・検診センターで勤務されている方 など
②ナースセンターでの再就業支援について
③看護師等の届出制度について

お申込み：山形県ナースセンターまでご連絡ください。



いろんな
働き方が
学べるよ!!

平成28年度 看護師等職場説明会

県内外の看護学校に在籍する県出身者と未就業の看護職を対象に、県内病院の魅力やPRする場を設定し、一人でも多くの看護学生等に県内定着を促し、県内病院の看護職員確保対策を支援いたします。

日 時：平成 28 年 4 月 2 日 (土)
13:00～16:00

開催場所：山形テルサ アプローズ

- 内 容：①病院紹介
・個人面談
②相談コーナー
・訪問看護ステーション・WECやまがた

平成28年度 看護学生フレッシュ説明会

現在看護を学んでいる看護学生等を対象に、県内病院等の特色や魅力をPRし、早い段階から県内就職に対する意識付けを図ることにより、学生の県内定着を促進します。

日 時：平成 28 年 7 月 30 日 (土)

13:00～16:00

開催場所：山形テルサ アプローズ

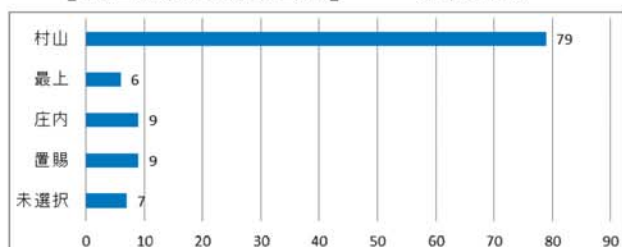
- 内 容：① 病院紹介
・個人面談 等



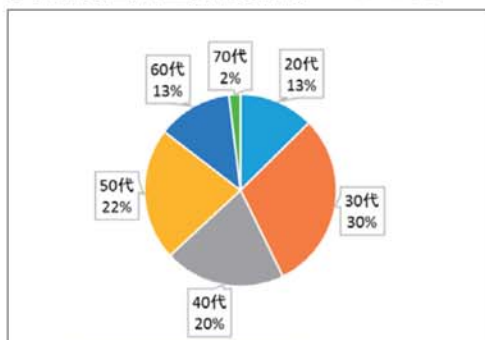
「看護師等の届出制度」届出状況

平成27年10月～12月

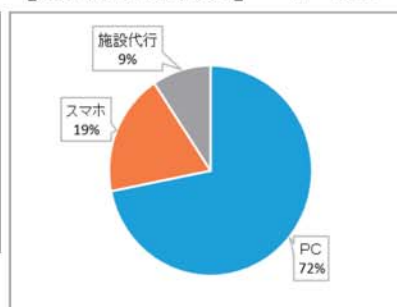
【地区別届出登録者数】 (単位：人)



【年齢別届出登録者割合】 n=103



【届出手段別割合】 n=103



健康や介護・育児などの生活情報やナースセンターなどの看護に関する情報満載の「情報コンテンツ」が始まりました!!アクセスしてみてね。



退職をお考えの皆様 届出しましょう



とどけるん 検索

スマートフォンやパソコンより、届出サイト「とどけるん」に登録するか山形県看護協会HPから、届出登録票をダウンロードし、郵送ください。

看護師等の届出サイト
とどけるん

URL <https://todokerun.nurse-center.net/todokerun/>

山形県ナースセンター (山形県看護協会内)
e-mail: yamagata@nurse-center.net

直通 ☎ 023-646-8878 F A X 023-646-8868

シリーズ⑦

感染予防の基本

本当に正しい方法はご存知ですか？インフルエンザや感染性胃腸炎など様々な感染症が増える時期です。正しい知識を身につけ、感染症を予防しましょう。



①手洗い



指輪や時計などははずします

まず流水で手を洗います

せっけんをつけてしっかり泡立てます

手のひら、手の甲をこすり、指の間は両手を組むようにこすりあわせて洗います

親指は反対の手でねじるようにして洗います

指先、爪の間は手のひらの上で指先をこするように洗います

手首は、反対の手でねじるようにして洗います



流水でせっけんを十分に洗い流します



清潔な乾いたタオルで水分をふき取ります

②うがいの方法



ステップ1

食べ物や細菌などを取り除く目的でこまめに口の中をうがいます。

ステップ2

上を向いて「ガラガラ」や「オー」と発声しながらのどの奥まで15秒程度うがいします。

ステップ3

温くなったら吐き出します。これを2回くり返します。

③マスクの着用方法

マスク選びのポイント

- ① 親指と人差し指でL字を作ります
- ② L字形にした状態で耳の付け根の一番高いところに親指の先端を当て鼻の付け根から1cm下のところに人差し指の先端を当てます
- ③ 親指から人差し指までの長さを測ればそれがサイズの目安になります

測った長さ

9~11 cm

子供用サイズ

10.5~12.5 cm

ふつうサイズ

14 cm以上

大きめサイズ

がおすすめ



～性の健康を支援するネットワーク会員の「リレー随筆」～

性の健康を支援する委員会 委員長 我妻 睦

性の健康を支援する委員会では、山形県の性の健康を守るために出前講座を行っています。平成26年度は、小・中・高校合わせて39件(3812名)に出前講座を行いました。現在のネットワーク会員は56名(男性2名)です。出前講座に興味がある方、まずは見学から始めてみませんか？一緒に性の健康を守るために活動してみませんか？会員登録お待ちしております。男性も大歓迎です♡

リレー随筆第2弾!!

矢口佳奈さんにインタビューしました。

Q1 何がきっかけで「性教育」を始めてみようと思いましたか。

A 当時の上司が性の研修会に行くことを勧めてくれたことがきっかけでした。また病院で働きはじめ、今まで教科書の統計でしか見たことなかった10代の性に関する問題に直面し、病院にくる前の段階で何か私にできることはないかと感じていたこともきっかけの1つでした。

Q2 「性教育出前講座」を行ってみての感想をお聞かせ下さい。

A 私は入職して3年目から性の出前講座を始めました。今考えると、当時は自分の看護観って何だろうと、とても考えていた時期でした。病院ではない場所で助産師として私は中・高生に何を伝えたいのだろう、彼らにどうなってほしいのだろうと、とても悩んでいました。もちろんその悩みは、学校のニーズや世の中の流れにより変化し、性教育を行うにあたり私をずっと悩ませるものではありません。しかし、少しずつ助産師であることを強みにできるようになり、「これだけは伝えたい」という核の部分形成されてきたように感じます。中・高生との年齢の差は広がる一方で今の10代のリアルな問題が見えなくなってきているのではないかと心配もしています。



☆年1回山形いぶき1月号では、リレー随筆としていろいろな方の出前講座体験をお伝えしていきます。
次の第3弾もお楽しみに♡

インフォメーション

information

新「会員情報管理体制」説明会の開催について

期 日 平成28年3月14日(月) 10:00~12:00
場 所 山形県看護協会 3階第1研修室
対 象 会員、会員施設代表者

平成28年度社会保険診療報酬改定説明会

期 日 平成28年3月14日(月) 13:00~17:00
場 所 山形県看護協会 3階第1研修室
対 象 看護職150名

平成27年度
会館建設積立金
納入状況

(平成27年12月31日現在)

納入人数	金 額	満額納入者
3,037名	16,657,000円	221名

皆様の多大なご協力ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

編集
後記

新年あけましておめでとうございます。本年も皆様に愛される山形いぶきを作っていけるようがんばっていきます。